



埋文だより

第27号

平成13年12月3日発行

先生も縄文体験に挑戦!!

8月16・17日の2日間、新任教職員研修「考古学講座」が行われ、小学校・中学校と高校、聾・養護学校の先生方73名が参加されました。

1日目は、センター内の見学、金関恕先生（大阪府立弥生文化博物館長）による「考古学を楽しく学ぶ」という講義を聴いた後、土器の復元作業を体験しました。2日目には午前中に上野原遺跡で、復元公開区の見学や火起こし・勾玉作りなど縄文体験に挑戦しました。午後からは、場所を桐木B遺跡（末吉町）に移して発掘体験をしました。



なかなか火がつかず、四苦八苦

初めのうちは、金関先生の講義を緊張した様子で聴いていた先生方も、2日目の縄文体験になると童心に返って火を起こしたり、滑石を使った勾玉作りに夢中になっていました。発掘体験では、土器を見つけると歓声が上がる場面もありました。この感動を子供たちにも伝えてほしいものだと思います。

《感想文より》

講義などで聴いた教科書にはでていない考古学の楽しさを、自分なりに子供たちに伝えていけたらと思う。

（鹿児島市立宮川小学校 松下京子教諭）

発掘体験は、なかなか地道で大変な作業で、こんな努力の積み重ねがすごい発見につながるのかと思うと、日頃の新聞・テレビなどの報道を見る目も変わらと思う。

（県立加世田高校 下入佐弥生教諭）

高学年を担当したときは、社会科や総合的な学習の時間にセンターを活用したいと思った。

（始良町立始良小学校 笠置倫敬教諭）

目次

頁

- ・先生も縄文体験に挑戦!! …1
- ・センターの講座・セミナーで技術を磨く
-センターの各種講座の紹介- …2・3
- ・遺跡紹介 …4・5
- ・上野原縄文の森
～移転準備着々と～ …6
- ・図書の活用を！
～図書室の御案内～ …6

鹿児島県立埋蔵文化財センターの見学は、
日曜日・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで。
入館料は無料。近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

センターの講座・セミナーで技術を磨く

県民セミナー好評！

－今年も3会場で－

開始以来、今年で10年目となるセンター主催の「歴史のふるさと 県民セミナー」が8月4日に、上野原遺跡（国分）と桐木遺跡（末吉町）、椿城跡（串木野市）、仕明遺跡（有明町）の3会場で行われ、合わせて299名の方が参加されました。

会場の一つである椿城跡では、多くの方が遺跡見学や発掘、古代の生活を体験されました。子供たちよりも保護者の方が、火起こしや勾玉作りに奮闘し、子供たちから尊敬のまなざしを受ける姿や、集石で作った焼き芋を、「おいしい」といってほおぼる姿が印象的でした。また、約1時間の、起伏の激しい山城の見学では、頂上付近から見える川や海を眺めながら当時の気分に入る姿が、また、発掘体験では土器や石器を見つけようと、暑さも忘れて発掘に夢中になる姿がそれぞれ目につきました。

別の2会場でも同様な体験が行われ、猛暑にもかかわらず参加者の方々は楽しい一日を過ごされたようです。

《参加者の感想》(一部抜粋)

- ・縄文時代の人になれて楽しかった。昔の人は苦労して生きていたんだなあと思ったりしました。
- ・土器や矢じりを教えてもらい、昔のものを探したりした。火起こしはとても熱かったけれど楽しかった。
- ・発掘でいっぱい石を見つけてうれしかった。夏休み一番の思い出になりました。
- ・勾玉はなかなかうまくできませんでした。こんなにおもしろい体験ができたことがとてもうれしいです。
- ・いい体験学習（家庭教育）だと父親の一人として感じた。疲れた。

講座一覧

講座名	日程	参加対象者
長期研修講座	5/7～11/6	埋蔵文化財専門職員を目指す市町村教育委員会の一般職員
歴史のふるさと 県民セミナー	8/4	県民(小学生以下は保護者同伴) A：上野原・桐木遺跡 B：椿城跡 C：仕明遺跡
考古学研修講座	8/16・17	新任教職員
技術研修講座	1/31・2/1	埋蔵文化財発掘調査に従事する市町村教育委員会の専門職員



初めての発掘体験に夢中

—センターの各種講座の紹介—

埋蔵文化財調査のエキスパートに！

～長研生の燃える闘志～



縄文の特徴について講義を受ける長研究生

毎年5月初旬から11月の初めまでの約半年間、埋蔵文化財の専門職員を目指す市町村の職員を対象に、長期研修講座を開講しています。

講座は平成4年度から始まり、これまでに43市町58名の方が受講され、それぞれの地域で埋蔵文化財のエキスパートとして遺跡の調査に、文化財の保存と活用にと活躍されています。今年も6名の方が巣立っていきました。

〈長研生のこえ〉

前半は現場実習だったが、多様な現場で多くの調査法を見ることができたのは大きな財産である。今後もいろいろなことで県の職員の方と協力体制を取っていきたい。(H・S)

何もかもが初めての経験で不安もあったが、作業員さんとのコミュニケーションなど大変ながらも楽しく研修ができた。(M・I)

学習したことの大半は時とともに忘れてしまうが、忘れてしまったことも自分で現場を持つようになったら少しずつ思い出すと思う。センターでのたくさんの人との出会いは今後のプラスになるだろう。(Y・N)

まったく未知の世界に飛び込むような気持ちで始めた研修だが、言葉一つを取っても聞き慣れないものばかりで、何か特別な世界に足を踏み入れたのだなと感じた。(N・S)

長研生の半年

5月 開講式

6月 発掘調査



まずは発掘現場での実習だ。土器などの遺物や竪穴住居などの遺構を掘ったり、遺物の取り上げや測量など、いろんなことをするんだ。

7月 考古学の講義

8月



鹿兒島の石器について、土器について、縄文時代について、弥生時代についてなどなど、いろんなことを学ぶよ。講義は難しいものもあるけどがんばる!!

9月 報告書の作成

10月



最後に自分の力で遺跡の報告書を作るんだ!! 実測をしたり、文章を書いたり大変だけど、もうひとふんばり!

11月 閉講式



報告書作成に向けてトレース実習

遺跡紹介

尾ヶ原遺跡 《金峰町大野ほか》

尾ヶ原遺跡は、農業開発総合センター整備事業に伴って平成13年7月から調査が始まりました。

調査の結果、縄文時代早期から中世までの数多くの遺構や遺物が見つかりました。

特に注目されるのは、小児壺棺と呼ばれる2個の小型壺の互いの口を合わせて、斜めに埋められた土器が見つかったことです。下の壺が中九州、上の壺が北九州でそれぞれ主に見つかる土器であることから、九州全域との関係を考える上で重要な遺物といえます。



小児壺棺

芝原遺跡 《金峰町宮崎》

芝原遺跡は、万之瀬川の河川改修工事に伴って発掘調査が進められており、川の流水作用によって堆積した砂の上に広がっています。

調査の結果、縄文時代中期から近世までの多くの遺構や遺物が見つかりました。

中でも注目されるのは、古代の溝の中から多くの土師器や須恵器とともに出土した多口瓶です。高さ22.5cmで通常の口を開むように4つの口がついた仏花器といわれる祭祀に使われるもので、平安時代初めのものです。

これまで、京都や奈良の寺院や役所跡などで多く出土しており、九州では、大宰府（太宰府市）や筑後国分寺跡（久留米市）で破片が出土していますが、ほぼ完全な形で発見されたのは初めてです。



多口瓶

仁田尾中B遺跡 《松元町石谷ほか》

仁田尾中B遺跡は、県道小山田・谷山線の改築工事に伴って発掘調査が進められています。

本年度は、旧石器時代から縄文時代草創期の石器製作所跡だったと考えられる約4万点もの遺物がまとまって発見されています。

平成5年度から調査の行われた仁田尾遺跡とも近く、当時この地域は進んだ技術をもった多くの人々が住んでいたと考えられます。



遺物の出土状況

梶城跡 《串木野市上名門前ほか》

南九州西回り自動車道の建設に伴って、串木野インター（仮称）の予定地として平成12年度から調査を行っています。

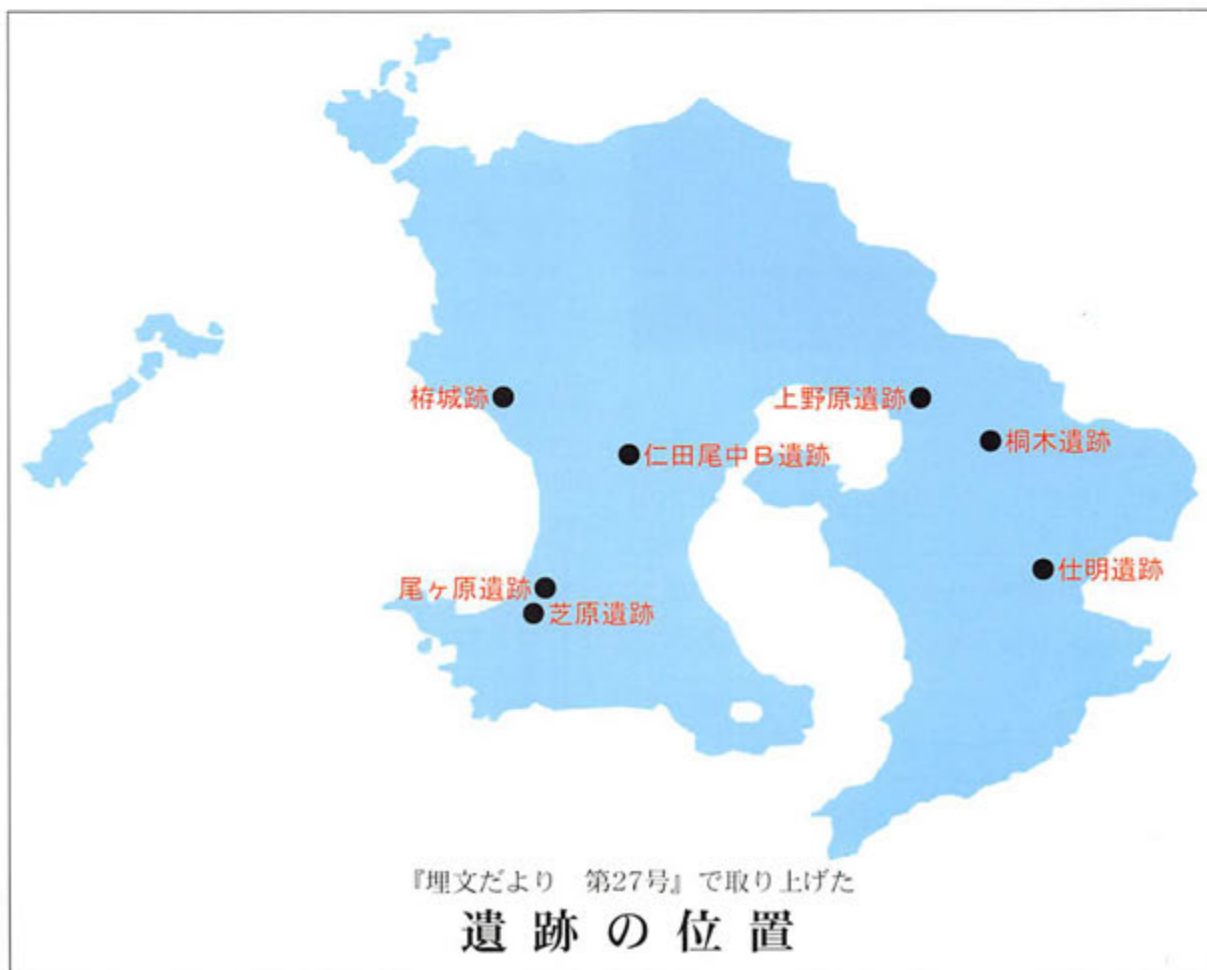
本年度は、昨年度より北側の調査を中心に行い、方形竪穴建物跡2棟と、二面に廂のある南北に長い建物跡、それに深い溝や大きな土坑などが見つかり、さらにその北側の当時の街道を見下ろす場所からは東西に細長い建物跡なども発見され、鎌倉～室町時代ごろの遺構と考えられています。

また、麓の部分からは、平安時代と考えられる『刀』と読める文字が刻まれた土師器の杯が出土したのをはじめ、西側の麓からは、江戸時代以降に作られたと思われる石垣で囲まれた屋敷跡から、井戸や暗きょ（地中に埋められた）排水路などが見つかっています。

屋敷のすぐ西隣には、現在でもこんこんと湧き出る泉があり、いつから使用され始めたのかははっきりしませんが、人々の生活用水として現在でも使い続けられています。



二面廂の建物跡



上野原縄文の森

～移転準備着々と～

上野原遺跡のある台地^{だいち}に上^あって来ると、道路^{どうろ}の両側^{りょうがわ}に大きな二棟^{にとう}の建物^{たてもの}やそれを結ぶ橋^{はし}の骨組み^{ほねぐみ}が見えて来ます。また、樹木^{じゆもく}も次々^{つぎつぎ}と植えられており、上野原縄文の森^{せんのうのま}の全容^{ぜんよう}が次第^{しだい}に明らか^{あきら}かになって来ました。

縄文^{じゆんぶん}の森^{のま}の中でも、随所^{ずいじよ}に巨木^{きよもく}も目立^{めだ}つ、落葉^{らくよう}広葉樹^{こうようじゆ}の多い9500年前^{こふさうじゆ}の縄文時代^{じゆんぶんじだい}早期^{しゆき}の植生^{しゆせい}を再現^{さいげん}した右側^{みぎがわ}のエリア^{えりあ}では、秋^{あき}の深まり^{ふかまり}とともに葉^はが色づき落葉^{らくよう}も進^{すす}んでいます。また、復元^{ふくげん}公開区^{こうかいく}には芝生^{しばふ}もはられ、次第^{しだい}に当時^{たむら}の森^{のま}の景観^{けいかん}がかもしだされつつあります。



整備進む上野原縄文の森

埋蔵文化財センター^{まいざうぶんかざいせんたー}や展示施設^{てんじしせつ}の工事^{こうじ}も順調^{じゆんてう}に進^{すす}み、現在^{げんざい}のところ^{ところ}建物^{たてもの}の工事^{こうじ}と合わせて内部^{うちぶ}の工事^{こうじ}にも取りかかっています。また、縄文^{じゆんぶん}の森^{のま}の中では、植樹^{しゆじゆ}とともに休憩所^{きゆうけいじよ}や古代家屋群^{こたいかおくぐん}、トイレ^{トイレ}などの建物^{たてもの}の建設^{けんせつ}も急ピッチ^{きゆうピッチ}で行わ^{おこな}われています。

縄文^{じゆんぶん}の森^{のま}に囲まれたこれらの建物^{たてもの}が出来上がり、公開区^{こうかいく}も周囲^{しうゐ}の植生^{しゆせい}を含^ふめて当時^{たむら}の様子^{ようす}が復元^{ふくげん}されると、も^もっと縄文人^{じゆんぶんじん}が身近^{みよき}となり、その心^{こころ}にふれることも夢^{ゆめ}ではなくなることでしょ^うう。

図書^{とくしょ}の活用^{かつよう}を！

～図書室^{とくしょしつ}の御案内^{ご案内}～

埋蔵文化財センター^{まいざうぶんかざいせんたー}内^{うち}にある記録保存室^{きらくほぜんしつ}兼^{かみ}図書室^{とくしょしつ}の資料^{しやうりょう}が、閲覧^{くわんらん}できることを御存知^{ごぞんじ}でしたか？ 持ち出すことはできませんが、図書室内^{とくしょしつうち}で読^よんだり、調^{しら}べたりすることはできます。

ここには、下記^{かひ}のような資料^{しやうりょう}が保管^{ほくぱん}されています。

資 料	内 容
報 告 書	各都道府県の遺跡の報告書
一 般 書	博物館の図録、歴史の道シリーズ、県・市史(誌)等
日本考古学年報	日本考古学協会発行の年報
研 究 紀 要	各機関・大学・団体が出した紀要(論文集)
年 報	各機関・大学・団体が出した年報
パンフレット	各機関・団体が発行している広報誌(紙)等
遺 跡 地 図	各都道府県の遺跡地図
文化財分布図	各都道府県文化財の分布地図
新聞スクラップ	考古学に関する新聞記事をスクラップしたもの

図書室^{とくしょしつ}では、上記^{じゆり}のような資料^{しやうりょう}を合計^{ごうけい}約3万冊^{まんさく}保管^{ほくぱん}していますが、一部^{いちぶ}、閲覧^{くわんらん}できないものもありますので、閲覧^{くわんらん}を希望^{きぼう}される際は担当職員^{たにとうしやくじん}にお尋ね^{たず}ください。また、利用^{りよう}は、月曜日^{げつようび}から金曜日^{きんようび}までとなっています。必要^{ひつやう}に応じてご利用^{りよう}ください。

埋文だより 第27号

発行日：平成13年12月3日

編集・発行

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-5652

鹿児島県始良郡始良町平松6252

TEL 0995-65-8787

FAX 0995-65-8117

E-mail: maibun@po.pref.kagoshima.jp